



ヒョウタン 涼しげ空間

大きさも形もさまざまなヒョウタンが、坂井市三国町平山の畑で実っている。栽培している県愛瓢会会長の畑野哲夫さん(左)は四日、実の状態を確認し、「今年は根がしっかりついたので、実が壊れることなく育つだろう」と順調な生育を喜んだ。

春に十七本の苗を植えた畑では、つるが高さ百七十センチほどの骨組みに絡み、数百個の

三国の畑

実がぶら下がっている。真ん中にくびれのある一般的な形のヒョウタンから、上の柄の部分細長い「ロングハンドルディッパー」まで計十品種を栽培。実は濃淡さまざまな緑色で、涼しげな雰囲気が出ている。

暑い日差しの下、涼しげな空間をつくり出しているヒョウタン。4日午前、坂井市三国町平山で(蓮覚寺宏絵撮影)

九月ごろに実を収穫する。その種や種から育てた苗は、NPO法人・全日本愛瓢会本部(福井市)を通じて全国の会員に提供される。畑野さんは「しっかり種がとれるように、水やりや病気の予防に気を付けた」と話した。(坂本碧)